

1. 総論

【総括判断】「管内経済は、緩やかに回復しつつある」

項目	前回（8年1月判断）	今回（8年4月判断）	前回比較
総括判断	緩やかに回復しつつある	緩やかに回復しつつある	→

（注）8年4月判断は、前回8年1月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

（判断の要点）

個人消費は、持ち直している。生産活動は、自動車関連を中心に緩やかに回復しつつある。雇用情勢は、緩やかに改善する中、企業の人手不足感は続いている。

【各項目の判断】

項目	前回（8年1月判断）	今回（8年4月判断）	前回比較
----	------------	------------	------

個人消費	持ち直している	持ち直している	→
生産活動	緩やかに回復しつつある	緩やかに回復しつつある	→
雇用情勢	緩やかに改善しているが、企業の人手不足感は続いている	緩やかに改善する中、企業の人手不足感は続いている	→

設備投資	7年度は増加見込み	7年度は増加見込み	→
企業収益	7年度は減益見込み	7年度は増益見込み	↗
住宅建設	弱い動きとなっている	弱い動きとなっている	→
公共事業	前年を上回っている	前年を上回っている	→
輸出	前年を上回っている	前年を上回っている	→

【先行き】

先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、緩やかに回復していくことが期待されるものの、中東情勢や金融資本市場の変動等の影響を注視する必要がある。

2. 各論

■ 個人消費 「持ち直している」

スーパー販売は、持ち直している。コンビニエンスストア販売は、緩やかに持ち直しつつある。ドラッグストア販売は、緩やかに回復している。百貨店販売は、緩やかに持ち直しつつある。家電大型専門店販売は、緩やかに回復している。ホームセンター販売は、一進一退の状況にある。乗用車販売は、一進一退の状況にある。旅行取扱高は、持ち直している。

(主なヒアリング結果)

- 顧客の低価格志向が根強い中、質の高い生鮮食品のほか、調理の手間がかからない総菜や冷凍食品などの売れ行きが良い。また、2月中旬からは暖かくなってきたことで、春野菜なども売れ始めている。(スーパー)
- 食料品では、依然としてコメの売上げが伸長している。また、スギ花粉の本格的な飛散時期が早まったこともあり、花粉症対策の鼻炎薬や目薬などが好調に推移している。(ドラッグストア)
- 冬場は、気温の低下によりコートなどが好調となったほか、春先からは、薄手のニットなどが売れ始めている。また、季節イベントなどに合わせた催事の効果もあり食料品の売上げが伸長した。(百貨店)
- 1~2月にかけて気温が低下したことに加え、初売りセールが奏功したことから、エアコンの販売が大きく伸長した。また、スポーツイベントの開催も後押しし、ミニLEDを搭載した大型テレビの販売も伸びた。(家電大型専門店)
- 1月の寒波による急激な寒さから、暖房用品や防寒着が好調となった。また、晴天の日が続いたことから、花苗などの園芸用品もよく売れている。(ホームセンター)

■ 生産活動 「緩やかに回復しつつある」

自動車関連は、緩やかに回復しつつある。航空機体部品は、持ち直している。金属工作機械は、緩やかに持ち直しつつある。半導体集積回路は、回復している。液晶は、弱い動きとなっている。電気機械は、横ばいの状況にある。普通鋼は、横ばいの状況にある。特殊鋼は、緩やかに持ち直しつつある。

- 中東情勢悪化の影響により中東向けを減産せざるを得ない状況となっているが、生産水準はこれまでとほとんど変わっていない。また、現時点で部材の調達に支障は出ていないが、石油関連製品など様々な素材の供給が滞るリスクを懸念しており、今後も動向を注視していく。(輸送機械)
- 国内向けでは、半導体市況の好調を背景に、半導体製造装置向けの受注が増加している。海外向けでは、米国向けに航空機関連の受注が増加しているほか、中国向けも堅調に推移している。(生産用機械)
- スマートフォン、データセンター向けとも好調であり、工場はフル稼働の状況が継続している。(電子部品・デバイス)
- 自動車メーカーにおいて、昨年末の工場稼働停止による生産の落ち込みを挽回する動きが見られ、自動車向けの出荷が増加した。(鉄鋼)

■ 雇用情勢 「緩やかに改善する中、企業の人手不足感は続いている」

有効求人倍率は、おおむね横ばいで推移している。完全失業率は、低水準である。法人企業景気予測調査の従業員数判断 BSI でみると、いずれの規模においても、また、製造業・非製造業いずれにおいても「不足気味」超となっている。

- 最低賃金の引上げ等の影響もあり、人材確保が困難となる中、人手不足への対応として、店舗におけるお掃除ロボットや窓拭きロボットの導入を進めている。今後は、全店舗にセルフレジを導入し、人件費削減や省人化を図っていく。(小売)
- 中小企業を中心に、原材料費や人件費等の高騰による利益圧迫を背景に求人を抑えるケースや、人手不足のため採用活動まで手が回らないケースが見られる。(公的機関)
- 企業における処遇改善の進展を背景に転職を抑える者がいる一方、人手不足により残業時間が増加したことで、ワーク・ライフ・バランスが損なわれたとして転職活動を行う者もいる。(公的機関)

■ 設備投資 「7年度は増加見込み」、 「8年度は増加見通し」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」8年1-3月期
【7年度見込み】

- 製造業では、「輸送用機械」や「電気機械」などが増加となることから、増加見込みとなっている。
- 非製造業では、「運輸、郵便」や「サービス」などが増加となることから、増加見込みとなっている。

【8年度見通し】

- 製造業では、「生産用機械」や「電気機械」などが減少となることから、減少見通しとなっている。
- 非製造業では、「卸売、小売」や「金融、保険」などが増加となることから、増加見通しとなっている。

- 今年度は、EV車の普及を見据え、車載部品の増産に向けた新工場を建設しているほか、受注事務のDX化のためのシステム更新を進めている。(輸送用機械)
- 今年度は、例年より車両更新台数が多く、上位グレードの車両やEVバスの導入を進めている。(運輸)
- 来年度は、今年度を実施した製品の高付加価値に向けた新規施設の整備や、物流機能の強化といった大型投資が一巡し、老朽設備の更新投資が中心となる見通しである。(生産用機械)
- 来年度は、今年度に引き続き、既存店舗の改修や省人化・効率化に向けたDX投資を図るほか、新規出店も行っていく予定である。(小売)

■ 企業収益 「7年度は増益見込み」、 「8年度は減益見通し」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」8年1-3月期
【7年度見込み】

- 製造業では、「生産用機械」や「電気機械」などが増益となることから、増益見込みとなっている。
- 非製造業では、「運輸、郵便」や「建設」などが増益となることから、増益見込みとなっている。

【8年度見通し】

- 製造業では、「情報通信機器」や「電気機械」などが減益となることから、減益見通しとなっている。
- 非製造業では、「情報通信」や「サービス」などが減益となることから、減益見通しとなっている。

■ 企業の景況感 「『下降』超となっている」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」8年1-3月期

- 景況判断BSIでみると、全産業の現状判断は、「下降」超となっている。また、先行き(8年4-6月期)は「下降」超幅が縮小する見通しとなっている。

■ 住宅建設 「弱い動きとなっている」

- 新設住宅着工戸数でみると、持家、貸家、分譲住宅いずれも前年を下回っていることから、弱い動きとなっている。

■ 公共事業 「前年を上回っている」

- 前払金保証請負金額でみると、独立行政法人等が増加していることから、前年を上回っている。

■ 輸出 「前年を上回っている」

- 輸出額(円ベース)は、前年を上回っている。なお、輸入額(円ベース)は、前年を上回っている。

■ 企業倒産 「前年を上回っている」

- 企業倒産件数は、前年を上回っている。

3. 各県の総括判断

	前回 (8年1月判断)	今回 (8年4月判断)	前回比較	総括判断の要点
愛知県	緩やかに回復しつつある	緩やかに回復しつつある	→	個人消費は、持ち直している。生産活動は、緩やかに回復しつつある。雇用情勢は、緩やかに改善している。
岐阜県	緩やかに回復しつつある	緩やかに回復しつつある	→	個人消費は、持ち直している。生産活動は、緩やかに回復しつつある。雇用情勢は、緩やかに改善しつつある。
静岡県	緩やかに回復しつつある	緩やかに回復しつつある	→	個人消費は、緩やかに回復しつつある。生産活動は、持ち直しつつある。雇用情勢は、改善に向けたテンポが緩やかになっている。
三重県	持ち直している	持ち直している	→	個人消費は、持ち直している。生産活動は、緩やかに回復しつつある。雇用情勢は、改善の動きに足踏みがみられる。